

# 京交山岳部報

№278

'75 12月号

【第1061回例会】

## タンポと小津権現山 (T)

日 時 12月6日(土)~7日(日) 5.00京津日岡電停集合  
コ ー ス 京都東一関ヶ原一津汲一小津…月尾谷…タンポ一等三角点1066 m…  
小津(泊)…高屋山…小津権現山二等三角点1158 m…小津一往路 帰洛  
担 当 者 本局 宮後正樹 (TEL 251) 申込み〆切 3日(水)  
備 考 今年の奥美濃例会フィナーレといきましょう。小津の高橋屋に泊ります。  
雨天決行です。多数ご参加ください。 1/5万円「谷汲」「横山」

【第1062回例会】

## '75年 納山祭 山科, 山ノ谷 (R)

日 時 12月20日(土)~21日(日)  
場 所 京阪 京津線日ノ岡駅より東50m北入、疏水を渡って50m先の川  
原にて幕営  
担 当 者 本局 三橋 勉 (TEL 245) 渡辺智生 (TEL 303)  
携 行 品 シュラフ、食器、ランプ 会費 ¥1,500.-  
申 込 み 会費を添えて担当者まで 〆切り 15日(月)  
備 考 今年も納山祭を楽しくやりましょう。翌日は大文字山、如意ヶ岳、池  
の地蔵方面を歩きます。昼食は各自用意して下さい。  
1/2.5万円 「京都東北部」「京都東南部」

【第1063回例会】

## ポンポン山 (R)

日 時 12月22日(月) 9.00 横大路 車庫集合  
コ ー ス 横大路車庫一善峰山…ポンポン山登山一横大路車庫一(すき焼) 場所未定  
担 当 者 横大路 牧野 健 (TEL 601-9391) 申込み〆切 15日(月)  
備 考 横大路 支部の忘年会を兼ねた山行です。他支部からの参加も大歓迎です。

## リーダー会

12月3日(水) 鷺見宅

## 今月の集会

- 日時 12月9日(火) 午後7時から 下鴨寮
- 議題
1. 12月例会(№1061~1063) 部員動静 報告
  2. 1月例会、集会(八条)について
  3. '75年山行の反省
  4. 連絡事項 その他

一当番 西賀茂支部



## 狩猟解禁

宮後正樹

厳しかった残暑に続いて今年は台風と秋雨前線の影響でいわゆる秋の長雨が続いた。11月に入ってようやく秋晴れの季節となり「天高く馬肥ゆる」好季となった。

もっとも「天高く馬肥ゆる」は、「秋が来た。萬里の長城のむこうでは騎馬民族の志気があがっている。秋の収穫をねらって侵略が始まるぞ」という警戒の意味を含めた中国の諺であって高い秋空は決してのんびりしたものではない。とある会誌の季節の話題に出ていたが、文化の日を含む連休は幸い晴天に恵まれ各地の紅葉どころは大変な賑わいだった。

小生も6年ぶり御母衣ダムの紅葉が忘れられず白川郷をたづねて合掌造りの民宿と全山紅葉の山と池沼の静けさを満喫して来た。

警戒といえば、11月15日からはいよいよ狩猟解禁で待ちかまえていたハンターたちはどっと山野へ繰り出してくる。こうなると春、夏、秋とわが物顔に山屋が独占していた山野は途端に散弾の危険にさらされることになる。特に我々のように人の登らない山深い山域を好んで親しんでいる者にとっては今までにもたびたび銃声の音に驚かされ脅えさせられた経験もあり十二分に注意する必要がある。しかしいくらこちらが注意していても最近のように狩猟技術、マナーともに未熟なハンターがいる限り何時獲物と誤認されてその犠牲にならんとも限らない。物騒なことである。

先日も京都府では急拠「人命第一」と府下7カ所に設置されているオリエンテーリングのパーマネントコースのうちコースの一部が猟区と重なっている6カ所について来年の2月15日まで狩猟期間中使用中を中止することを決めたという。

また舞鶴市では開催予定だったOL大会が狩猟解禁のためこれまた急遽中止となり一部の人間の楽しみのために多くの人を楽しめるOL大会が中止になるとは矛盾もはなはだしい。と一学生が新聞に憤慨の投書を載せていた。

全くそのとおりで、むしろOLコースに含まれているような猟区こそ禁止又は廃止にすべきであると思う。

そもそも狩猟というのはまだ人間が農耕や牧畜を知らなかった食糧採集の経済社会においては食糧を得るための重要な手段ではあったが、少なくとも食糧生産の経済社会のもとにおいては特殊な職業としてか、或いはスポーツとしてのみ行われているものであり、それだけに今日では「鳥獣保護及び狩猟に関する法律」によってその資格、方法、狩猟動物、期間などについて制限を加えているのである。同法第10条には「都道府県知事は危険予防のためその他必要と認むるときは銃猟禁止区域を説くことを得」と定めている。

何もオリエンテーリングや山登りを禁止してまで狩猟を優先させなければならぬ理由はないと思う。環境庁や都道府県の役人たちもかつて狩猟のため絶滅して行った日本のオオカミやアメリカのリョコウバトなどの種を踏まないためにも自然保護の立場から、さらにより国民的スポーツの立場からも再考をうながしたいものである。

## 西 光 寺 山

伊 藤 潤 治

林道がつきる辺り、右手に自然石で常夜燈の形に積み重ねたものが立っていた。これはこれより聖域なりということと神を慕って近づこうとする者に神への道を照らするべのように思えた。そしてその神の威徳のしろしめすところなのか、小道はささやかな往来のあとをとどめていたし、左右の繁みからも「ようお詣りやす」と肩をたたくて、小枝や蔓の先がささやいてきた。やがて岐れを示す碑に出会う。左と右の文字は判るが、刻みが浅くあとは読めない。碑の文字にかかわらず、ここは左が正しかった。その左へ従ったところ神も時として罪深きわるさをなせるものである。すぐ小道がなくなった。今まではミカンとりの道やったんやな。疑りことをご存知ない佳麗や剛果のお顔ぶれ、左が駄目なら右ですわ。藪も待ち構えていたように道をひらく。尾根に上る筈が谷に迎えられ、凍った岩床のつづくとおきのような溪趣をふるまわれて行く。今西先生は処々で「こら本格派やぞ」とこのルートをご賞賛になった。その内容と呼ぶには条件不足だが、立溝状の谷が現れる。これに移って登ると真一文字にいただきでお立ちの神の御前に至った。やはりこの神は茶目気の多いお方であった。狭い山上をわがもの顔の小祠を構へてちゃっかりおすましのところまことに頼母しいが、どうも腕白ざかりのガキ大将に見えてしよりが多かった。でも流石今西先生合掌なさって登頂の慶びをお捧げ下さった。頂上の神の御館にはあちこちのお山で随分お目にかか

てきているがこの西光寺山の神のように心に残るさわやかな小峯には稀にしかお目にかかれぬものである。この山の下りは南隣りの小尾根を辿って積線に上っていた神祠への道に招かれたので、往路の碑の前に降り平凡裡におわった。それにしても今日のルートが一生に一度きりの登拜者たちであることを特によみし給うた。格別の神意であったように思えありがたかった。車止めに近い。

枯れカルカヤ・枯れシバ草がひろがった陽だまりは今西先生の腰をおろさせた。先生はこのくつろぎの中で今日苦楽の岐れとなった地点について「あんな道が見破れなかったとは、そんな意味のことをおもしろになったのである。ところが道を見失った事により変化と充実を思いがけなく愉しめたとしていた私は、あの道が判ったり、またひとつも間違わんようになってしまつたらもう山登りの愉しみはおへんでっすせ。こんな風に遠慮のないことを申し上げた。先生は、そうかたのしみが無くなってしまふか。と笑っておいでになった。日がたつてこの言葉が基底的外れであったと気がついた。今西先生のご山行を一言で申せば綿密な測定により、どこを通りどこで何時何時に着いて何時に発つ、と地形図に予定路線を完全に敷き朱線を入れるばかりにしてお出かけである。何だごく当り前のことじゃないか。そう思われてしまうかも知れないからもう少し述べる。先生のプランには独自の作法がうかがえる。先づ天象を察し豪もさからわれない。たとへば、雨雪の日と曇天が多い冬期の日本海側へはほとんどおでかけがない。ついで目的の山について、尾根や谷やコースはその地形図からあっさり暗記なさるとともにそれら一連の所要時間の算出も的確無比でいらっしやる。それ故の御芸当だが考えるとこれ程のプランは登る事とは一種別な高等ゲームである。

さて、西光寺山のスケジュールも狂いは見当たらない。けれどし細を申せば地形図が一寸ストーリーを脱線させたのと、ルートを繁茂で迷がしたことがあった。その内地形図の鹽は辛棒できるとしても登りに無くなった筈の道に乗っての下山は当然せめられよう。先生がもたらされた「あんな道が見破れなかった、とは、は実に意味深重なお言葉であった次第だ。ようやくここに気がついたのは、まだ忘れたでは済まぬ去年三月十八日のこと。東床尾山の糸井溪谷でルートを失い演じたにがががしい経験を思い出したからである。何もこの時はばかりにかぎらずプランは常に粗略で行き当りばかりを得意がる傲慢者だが、糸井溪谷での強行だけは下手糞すぎればらく心に痛みが残った。その折に絶対こんな苦杯を再び貰めないうるかたに肝に染めたのであった。あとそれがどうだろう。由良ヶ岳のルートの一部と、己高山の登りルートからはやくも駄目じゃないか、で後髪をひっぱられてしまった。年が新しくなっても先生にせつかくルートを教わりながら、三千峠も変な登り方にしてしまった。霊仙山と△Ⅱ 552.4 mも阿呆くさいコースをとってしまった。ふり返ってみると、志の程も空しくへまの何と賑やかなことよである。こんな傲慢の調子ではとても極意の会得どころか、うっかりするとどうも緩山にうってとられてしまいそうな気がしてきた。しかしかなわぬまでも、今西登山学へ性根をすへ、いろいろ悔を残さぬよりはげまねばなるまい。西光寺山は本当の山登りはまだまだ先である。つくづくこんなことを考えさせてくれた山であった。

東床尾山 △Ⅰ 839m 出石図幅

由良ヶ岳 △Ⅱ 640 m 由良図幅

己高山 △Ⅱ 923m 横山図幅

三千峠 △Ⅲ 771.8m 御在所山図幅

霊仙山 △Ⅲ 751m 北小松図幅

△552.4m 京都東北部図幅 (49.2.10)

# ヨーロッパアルプスの山旅

## その2 グリンデルワルト

木原 滋

7月31日朝 宿の庭に参加者全員が集合。大部分の人は、僕等と同じようなハイキングコースを毎日歩いてすごしたらしい。モンブラン(4807 m)へ登った人も3人あって今泉君と鈴木君はそれぞれ単独で、清水君はガイドと共に登っている。三人共グーテ小屋一泊の登山コースで、天候さえ良ければ、困難な場所は少なかったと云う話である。それでも氷雪におおわれたアルプスの最高峰なので、よほど自信のある人以外はガイドをやとるのが無難で、今泉君の登った日は、グーテ小屋で雪が降ってびっくりしたと話していた。9時40分、バスで出発。小さな峠を越えるところで、モンブランにわかれを告げる。間もなくスイス領に入り、ブドウ園にかこまれた町コルティニーを通過。小さな村で昼食にした。スイスの町や村はどこも花と緑がいっぱいで、絵のように美しい。トゥーン湖とブリエンツ湖にはさまれた町インターラーケンでベルナーオーバラントアルプスの山に初見参。最初に見えた真っ白な峰はユングフラウ(4158 m)である。この町から登山電車が出ているが、我々はそのまゝバスでグリンデルワルトに向う。おめあてのアイガー(3974 m)はなかなか見えず、ようやく姿を表わしたのはグリンデルワルトのすぐ近くである。グリンデルワルトは標高1050 mの美しい村で、中心街の両側にはホテル、レストラン、商店等がかたまり、まわりは牧草が山の中腹まで続いていて、その中に点々と家がある。そしてその背後には、ウエッターホルン(3708 m)とアイガーがそびえ、アルプスでも最も牧歌的な風景である。15時20分、グリンデルワルトの宿、ホテルサンスターに入る。部屋の窓からは目の前にアイガの岩壁が見え、ベランダの椅子にすわって夕暮れの山をながめっていると、何ともいえないしみじみした気持ちになる。

8月1日 8時10分発の登山電車でユングフラウヨッホへ。同行はシャモニでおなじみの3人で、電車はアイガーのすそをゆっくりのぼって行く。クライネシャイデックで乗換えて、アイガーグレッチャ駅をすぎた所でトンネルに入る。トンネルはアイガーの真中を通っていて、トンネル内の駅アイガーヴァントで5分間停車する。ドイツ語?と共に、日本語の車内アナウンスがあったのにはおどろいた。岩にかけられた穴は、有名なアイガー北壁にかけられた窓で、下を見おろしたが、思ったより斜面はゆるい。ここは北壁でも下部の方で、スゴイのはここから上になる。9時45分、ユングフラウヨッホ(3454 m)着。駅はトンネルの中にあり、外へ出ると真っ白な雪の世界である。セーターとジャックを着てもまだ寒い。前にユングフラウ、後にメンヒ(4099 m)がそびえたち、アレッチ氷河もみごとだ。ガイドブックによると、ここからメンヒ頂上までのコースは、アルプスの4000 m峰の中では最も危険度が少なく、ユングフラウも、ここを基点に往復できると書いてある。自信のない我々は、ユングフラウヨッホの展望だけで満足し、電車でクライネシャイデックに引き返す。クライネシャイデックは2061 mの所にある駅で、ここで電車は2つの方向にわかれて

いる。今日はグリンデルワルトとは反対側のラウターブルネンの谷へ行く予定だが、少し時間待ちがあるので、駅の横の丘へあがって見た。この景観もまたスバラシイ。目の前にアイガー北壁を見て、その横に美しいメンヒが並び、さらにユングフラウへと続いている。グリンデルワルトの谷の方は、ずっと牧草が広がり、ウエッターホルンも見える。この付近をゆっくり歩いてみたいな。と思ひながら花の中で寝ころがっていると、アルペンホルンが聞こえて来て夢のようだ。昼食のパンを食べ、また電車に乗って、ラウターブルネン着13時5分。この谷の上にはミューレンと云う静かな村があり、行ってみたいと思っていたが、帰りの時間がおそくなるのであきらめざるをえず、近くにあるシュタウブパッハの滝へ行く。滝の真下でローヒをわかしたりして、1時間あまりをのんびりと過ごし、電車でグリンデルワルトに帰る。今夜はスイスの建国祭だ。花火があがり、教会の鐘が鳴りわたり、民族衣装をきた人達の行進もあってにぎやかな夜である。

8月2日 天候にはめぐまれていて、今日もよい天気である。宿のすぐ前からフィルストへのリフトに乗る。リフトは2人乗りになっている。いすは横向きについていて、景色を満喫しながらのぼって行くようになっている。ゆるやかな斜面の緑の牧場、その中に点々とある民家の上を、ゆっくりとリフトのはぼって行き、30分で2200mのフィルスト着。グリンデルワルトは、はるか下になり、ベルナーオーバーアアルプスの山々が豪華な展望を見せ、足もとには黄色の花が一面に咲いている。フィルストから約1時間歩いて、山上の湖パッハゼーに着く。2つの小さな湖が、フィッシャホルン(4048m)、フィンスターールホルン(4274m)、ウエッターホルンの姿をうつしていて、牛の首につけた鈴の音も聞こえてくる。吉田君と村山君は、ここで遊んでいる。と云うので、山口君とファウルホルン(2684m)へ行くことにする。パッハゼーから約1時間ののぼり道でファウルホルンに着く。展望はフィルストよりさらに広大で、頂上の山小屋でのんだビールのはまたかくべつである。グリンデルワルトへは、歩いておりの方が楽しいが、少しつかれた感じなので、同じ道をフィルストに引き返し、リフトで帰る。明日はツエルマットへ出発だ。

## 貝 月 山

梅 津 吉 田 武

10月25日 5時山科日ノ岡を出発し一路名神へと進む。東インターより関ヶ原まで走り、それより美濃赤坂經由で春日村尾西へ7時35分についた。今日もよい天気では紅葉の深まった山が美しかった。尾西でおばさんに日越の道をたづねると右の道を行けば良いとの事であるが、クラウンでは通れそうもないので民家に車を置かしてもらって歩く事にした。林道を15分ぐらい歩くともう軽自動車でも通れそうにない道である。約1時間程で林道は終り気持ちのよい山道となった。途中で地図を出してルートを確認しても、いっこうに出合らしきものがないのでへんだと思ひながら歩いていると、O氏はこのルートは東品又谷のルートで間違いはないとの事で歩きはじめた。林道

の終点から約1時間で日越についた。貝月山への道は整備されているようだ。直登で150m 位の高度があると思われる。日越で目じるしの赤布をつけて登りだす。これを登れば頂上が見えるはずである。最後のガンバリと思った。日越から30分で頂上貝月山へついた。左後方に伊吹山と国見岳、前方には6月登った金鷲岳が見え、右前方に奥美濃の最高峰能郷白山と展望がひらけて秋山の良さを思ひぞんぶん味わった。時計を見るとまだ10時50分であるが朝が早かったので昼食をすることにした。頂上で1時間あまり休けいして、二等三角点の貝月山を後に足どりもかるやかに下山する事にした。1時間45分で民家についた。おばさんに礼を言って帰路についた。

参加者 大槻雅弘、牧定夫、三橋勉、田中忠久、吉田武

コース・タイム 5.00山科発→7.35～7.45尾西→8.35林道終点→9.30日越→10.15～11.15貝月山頂上→13.05尾西→16.00山科着

## 北 山 三 国 岳

錦 林 大 槻 雅 弘

「雨やったらやめとこか、ブッシュで濡れるのもイヤやし」「そやネ。そうしよるか」例会を出した後で、参加予定の武田さんと雑談しながら、そんな話しをしていた。当日7時30分朝食をすませ、表に出ると雨がしとしと降り出してきた。勤務中の武田さんに電話し「先日、話していた通り雨になってきたネ、うとうしいしやめときまひょか」という事で、中止をきめこみ朝刊を読む。8時30分。外が少し明るくなってきた様子なのでもう一度表に出る。晴である。1時間足らずの間に雨雲が去り、上空は青空が広がっている。早速、家に入り電話をする。「行こか?」「ほんから、そうい事て」以上のいきさつで、9時20分に錦林車庫を後に車を北に、久多、三軒屋へと急いだ。滝谷と、岩屋谷出合、10時40分。ドシヤ降りである。途中、中村当りから霧雨だったのが、いつの間にかしとしと降り出し「やはり北は、よう降るナア、北山しぐれとはより言うたものやネ」と話していたが、しぐれどころか雨、雨、雨…。車から外に出る気もせず、しばし沈黙。10分程で雨はいくぶん小雨に「折角、ここ迄来たんやから登ろか」という事で、雨具に傘のいでたちで登る。

昨年の5月5日、例会/6983回の山村氏も雨の中を登っておられる。それも3回程、延期延期の末である。又、それより以前に宮後氏も雨と雪の登山である。三国岳は良く雨が降る。我々も又最初に雨から中止ときめながら、結極雨の中を登ったのだからよく出来ている。楽しい登山より、とにかく登ってきたという感じだけである。ルートについては、山村、宮後両氏の例会報告にくわしく書かれてあるので省略する。洞穴の状態、道の状況等も同じ程度であった。

参加者 武田喜久郎

コース・タイム 錦林車庫9.20-10.40(岩屋谷出合)11.05-12.30(谷筋から尾根へ)

取付) -14.20 (頂上) 14.40 -15.55 (岩屋谷出合) -18.30 錦林車庫

## るり溪から剣尾山へ

横大格 井 上 国 雄

11月10日山陰線京都駅を出発、久し振り「鈍行」に乗り車内で何年ごろ製造された汽車だろうと話しながら昭和初期を想像しながら亀岡に着く。予定コースだと少々無理な様にもあるのでもり溪までタクシーに乗ることにした。すっかり紅葉したるり溪より落葉を踏みながら溪谷ぞいに通天湖へ登っていく。途中には個々に溪谷岩の名称がつけられ自然の美にあらためて賛美した。通天湖より紅葉の小々を満喫しながら少々歩くと地図には無かったゴルフ場前に出る。まだ建設途中か一部未補装の道路であるが10m位の立派な道で少々感くる。ゴルフ場を後にしながら深山へ目指して進むが道標が無いので地図を調べるがもう少し先ではないかと云う事で進んでいくが、どうしてもわからない。少々歩いていると民家がまばらに目に入る。そこで深山はどの辺かと聞きすてに行過ぎている事を知り、残念乍ら又の機会にする事にした。次ぎの目標である剣尾山を聞くともう少し先の土ヶ畑と云う部落で開けと云う事で又少々歩くと右側に小さな竹ヤブがあった。「小さな竹ヤブに注意を要す」そこで又道を聞くと竹ヤブを右へ折れば剣尾山の頂上へ行けると云う事で進んでいくと小さな谷川がある。そこに見えにくい小さな道標が目に入る。この辺からは笹の多い所である。道ははっきりしている。30分位登ると青少年野外活動センター、剣尾山への分岐点に出る。少々休んでから右へ剣尾山へと登って行く。少々急な道だが松林を過ぎ棚に沿って進むと摂津、丹波の国界の石碑があった。もう山頂である。剣尾山は森上盆地の北にあり頂上に783.7mの三等三角点を持っている。又頂上附近に花崗岩が点在していた。山頂で三角点を捜すが見あたらないので小さな「クイ」で全員バンザイ三唱する。こゝで大阪方面から4.5人のグループに出合。時計を見ると10時である。昼食には少々早過ぎるので、地図を調べると同じ高さの横尾山がある。ほんとうに剣尾山の横にあるので横尾山か?とにかく横尾山へ登ることにした。こゝではかなり前から入山してないので踏みあとがない。イバラ、松林、笹等で進みにくい。同行者の山下さんが「ナタ」を持っておられたので、先頭に歩いて頂いた。国界のせいか笹山と松林の境界がはっきりしていて其の間が道の様になっていた。1時間で山頂に着く。こゝで昼食をとる事にした。冷い風が強く笹の陰で食事をとる。11時30分あまり寒いので出発することにした。再び剣尾山へもどる。こゝで記念写真を取る。小休止後下山に向う。約40分位歩く。かなり急な坂道となり薄暗い感じである。地蔵尊が6体安置された所に出合。又野外センター一般登山者通行禁止の立て札がある。もう少し下るとこんどは巨岩がひさしの様に道をおよっている。この辺になるともう



行者山であることを聞き、道路も良く手入されている。又松林の中に小さなお堂が現れる。こゝで小休止をとる。約15分位下ると急に薄暗い感じとは一変して明るくなる。行者口に出たのである。この辺は附近一帯キャンプ場となっている。こゝで小休止。持っていた荷物をすっかり軽くして森上へ向う。途中真言宗玉泉寺の前を通り173号線へ出る。国道を横切り少し歩くと浮峠の道標がある。約55分位いで森上に着く。こゝから15分位歩くと汐ノ湯温泉に着く。こゝで体の疲れをとる事にした。あまり温泉とは云えないが疲れの後の湯はまた格別であった。16時01分バスにて池田へ向う。もう大阪駅に着く頃は、すっかり暗くなっていた。

参加者 大西純一(L) 生田敏雄、牧藤義治、井上国雄、山下栄次、松永繁木

コース・タイム 京都駅発5.50 亀岡着6.30 一るり溪7.10 一通天湖7.45 一土ヶ畑8.45 一  
 剣尾山9.55 一横尾山11.00 一行者口13.15 一森上14.20 一汐ノ湯14.35 一16.01 一池田  
 16.50 一大阪17.25 一京都18.20

## 例 会 報 告

例会№	目的地	月 日	天候	担当 者	参加 者	記 事
1056	近江・美濃 の峠と山	10月25日	晴	錦林 大槻 雅弘	牧 定夫氏 田中 忠久 三橋 勉 吉田 武	コースを一部変更して、25日 早朝発、日帰りで貝月山に登っ て来た。頂上まで道が切り開か れていて、奥美濃山行としては 少しものたりなかったが、天候に恵ぐまれ、360度のすばらしい展望を楽しんだ。詳細別稿 報告
1057	綿 向 山	11月 3日	晴	横大路 田中 忠久 田中の妻と子供2人	山村敏郎氏 三橋 勉 と子供1人	鈴鹿の山に秋が美しかった。林 道終点、奥の平から表参道方向 へ、よい道がついていた。頂上 まで約1時間である。風は冷た かったが、頂上からの展望は、天候にも恵ぐまれ、すばらしかった。特に鎌ヶ岳が印象的で あった。私たちのほか、幾組かのパーティと地元の子供等が登って来た。昼食後、竜王山の あん部へ下ったが、この下りは子供連れには、ちょっときつかった。久しぶりに例会に参加 していたといいた山村さんは、あいかわらずお元気で、ご退職後、ますますお若くなられるよ りである。 林道終点奥の平9.50発…綿向山頂上11.00～11.50…竜王山あん部13.00 …林道終点13.25
1058	三方岩岳と 白川郷	11月 3日 ～4日	晴	本局 岡田 茂久 守山寿彦、壬生外子	牧 定夫氏 宮後 正樹	山よし、天候よし、人よし、楽 しい山行であった。 詳細次号報告

1059	北山 三国岳	11月 9日	雨	錦林 大槻 雅弘	武田喜久郎	雨の中を登頂する。 別稿報告
1060	八雲山と 傘峠	11月13日 ~14日	雨	五条 坂井 久光		雨天のため中止

## 雑 報

### ▲11月集会報告

11月21日 下鴨寮

出席者 名誉部員 山村敏郎氏、 牧 定夫氏  
 本 局 三橋、宮後  
 錦 林 武田  
 梅 津 吉田  
 五 条 坂井  
 横 大路 田中、山田、岡本

10名

#### 1. 11月例会報告

貝月山 (№1056) 綿向山 (№1057) 三方岩岳 (№1058) といずれも天候に恵まれて、楽しい報告であった。

北山三国岳 (№1059) は雨天の中を登頂、演習林は雨天のため中止

#### 2. 12月例会打合せ

タンボと小津権現山 (12/6~7日) 担当者 宮後 参加予定者 8人

納山祭 雲母坂の予定を山科の山の谷に変更 (12/20~21日) 担当 本局

#### 3. その他

名誉部員の牧さんや山村さんを囲んで、病気全快の岡本君など楽しい山行の話がはずんだ。

テニス用品  
スキー用品  
山用

交通局の皆さん  
とりあえず 京菱へ  
満足のいくようにします

**京菱運動具店**

下・大宮松原上ル  
TEL 801-1331

みんな知っている

古くからの厚生会特約店

**野球用具 硬式・軟式専門店**

ゴルフ初心者向クラブ沢山  
あります 特に偶数クラブOK  
以上の商品なんでもOK  
購買証御利用下さい

月賦可 電話にて御注文下さい

**KK西沢スポーツ**

中・釜座御池下  
(221) 5739

帆布・濾布  
テント・シート  
雨合羽

**木村工業有限会社**

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所  
名古屋市西区児玉町7-30  
TEL 521-7541代~4



真の専門店として

京都山荘は前進しております

山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を

確信ある価格で・・・

**京都山荘**

河原町六角下ル東入ル

TEL 241-1731

昭和50年12月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局

京交山岳部


# ダイバー仲間のプロショップ

- 取扱品 ● スキューバアホロ京都総発元  
 ● ホイト(※) タコ-(※) クレム-サブ(伊)  
 マリン(仏) ブッシャーサブ(仏) NDS(日)  
 キヌ川(日) スキューバプロ(※) 代理店
- 講習会 ● 現役プロダイバーによる安全確実な  
 アクアラング指導

ダイビングプロショップ 〒603  
**エリート** 京都市北区花川通北大路上ル景優り  
 TEL 075 (492) 8450

**PRO SHOP**  
**山とスキー チロル**  
 輸入品とオリジナルの店

AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下  
 定休日 月曜日 (221) 6186

 まかせて下さい…ネ  
**山とスキー**  
 のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています  
 ☆山の道具は”ゼヒ”御相談下さい  
 ☆友の会会員募集中(毎月 1000円)

山とスキーの専門店  
**スリイケ**

河原町店 上・河原町通丸太町東入  
 烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側



この用具の事なら「ニシ」が一番です!

御来店ありがとうございます  
 山とスキー  
 そして海の レジャースポーツショップ



中・二条通河原町西 TEL 231-1202

山を美しく //

山のごみは  
 各自持って帰りましょう。